
中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2007年8月3日号

◎2007年6月トウモロコシ市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年6月におけるトウモロコシ市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 トウモロコシは種面積は引き続き増加、東北の生産地の干ばつは緩和

全国の定点調査によると、2007年の中国トウモロコシは種面積は、3%以上の増加となった。春季は種後の調査によると、今年の東北の生産地におけるは種面積は比較的増加幅が大きく、そのうち黒龍江省は大幅な増加となった。華北の黄河・淮河流域の生産地におけるは種面積も、増加が見込まれている。6月は、東北の春トウモロコシは七葉期から拔節期（主茎の節が急伸する時期）に、華北及び西北では拔節期から抽雄期（雄穂が伸び出る時期）に、また西南では抽雄期から乳熟期（開花・受粉後、実の中に澱粉その他栄養分を蓄え始める時期）にある。夏トウモロコシは、華北では発芽期から三葉期、黄河・淮河流域では三葉期から七葉期、西南では拔節期から抽雄期にある。6月下旬は、東北の主産地で降水があつて干ばつが緩和された。現在、トウモロコシの生長は相対的に良好である。

2 1～5月の輸出入は増加するも、輸入量は比較的小

海関統計によると、2007年5月のトウモロコシ輸出量は、前年同月比68.4%増の2.8万トンとなったが、前2カ月に比べ大幅な減少となった。1～5月の累計輸出量は、前年同期比56.1%増の350.8万トンとなった。輸出割当額の使用度から、今年後半のトウモロコシ輸出は減少するものとみられる。中国のトウモロコシの主要輸出相手国は韓国で、総輸出量の64.1%を占めている。その他重要な輸出相手国として日本、マレーシア、インドネシア及びイランなどがある。主要輸出省は、東北3省及び内蒙古自治区である。1～5月の輸入量累計は、前年同期比1.3倍の6,550トンとなった。

3 国内トウモロコシ総供給量は増加、工業消費量の増加が顕著

2006/07年度（2006年10月～2007年9月）における中国のトウモロコシ供給量は、前年度比6.2%増と予測されている。うち同年度の新たな供給増加量は、同4.4%増とみられている。また、同年度におけるトウモロコシの国内総消費量は、同4.2%増と予測されている。うち飼料用消費は同1.6%増、食用消費は同6.9%減、工業用消費は同18.8%とみられている。また、輸出量を加えた2006/07年度のトウモロコシ総需要量は、前年度比4.6%増と予測されている。トウモロコシの新たな供給増加量が、当年度の需要量をやや上回るため、在庫量は前年度よりも増加する見込みである。ただし、工業用消費量の増加の勢いが強く、国内のトウモロコシ需給が逼迫する可能性もある。

4 （略）

本項の原文では、米国農務省（USDA）の発表データに基づく中国農業部による世界のトウモロコシ需給に関する情勢分析などの記述が掲載されているが、農業部の用いている数値とUSDAの発表データが整合しない箇所や転載ミスと推察される箇所、数値の出所が不明な箇所などが多く見られ、誤解を招く可能性があることから割愛した。

5 上半期の国内トウモロコシ価格の上昇はやや緩和するも前年同期高

国内のトウモロコシ価格は、前年の持続的な高騰の後、2007年上半期にはその勢いやや緩和したものの、高水準で推移しながら上昇するという特徴を呈した。生産地における価格は、特に東北の価格が顕著に上昇した一方、消費地の価格は安定的に推移した。6月の国内生産地の平均卸売価格は1トン当たり1,486円で、前月比3.7%高、前年同月比15.5%高となった。そのうち、東北では前月比7.6%高・前年同月比14.2%高、華北の黄河・淮河流域の生産地では前月比2.2%高・前年同月比15.8%高となった。消費地における平均卸売価格は同1,726円で、前月比2.0%高・前年同月比14.5%高となった。農家販売価格も上昇傾向を示し、6月の吉林省、黒龍江省、山東省、河北省及び河南省の主産地5省における中等トウモロコシの農家平均販売価格は、50kg当たり69.3円で、前月比3.5%高、前年同月比20.4%高となった。

6 上半期の国際市場価格は下落の後に高騰、内外価格差が拡大

米国における燃料用アルコールに対するトウモロコシ需要が強いことから、2007年1～2月の国際市場価格は、最近10年間で最高値を記録した。3～4月には、米国のトウモロコシは種面積が大幅に増加するとの予測に国際トウモロコシ価格は高水準ながら下落し、5～6月には再び上昇に転じた。6月における米国メキシコ湾の2号黄色トウモロコシの平均港湾価格（本船渡し価格＝FOB価格）は1トン当たり1,275円で、前月比4.8%高・

前年同月比45.1%高となった。また、シカゴの先物価格は同1,165円で、前月比2.2%高・前年同期比48.2%高となった。現在の国際価格は、依然として高水準にあり、下半期の価格は、気候条件の変化に伴って動くものと予測されている。

上半期は海上輸送費が高騰を続け、国際トウモロコシ価格は高水準で推移したことから、内外価格差が拡大した。広州市の黄埔港では、6月の米国産トウモロコシの価格が、国内港価格に比べて1トン当たり569元高く、年初に比べ価格差が同199元拡大した。